

歴史的経緯と保存・活用の目的

① 歴史的経緯

ヒュッテ・ヤレンは、白洲次郎によって山形県蔵王温泉に建てられました。竣工は1957年（昭和32年）で、その後、山形交通（現株ヤマコー）を経て1963年（昭和38年）に三宅馨氏の手に渡り、馨氏亡き後はご家族が維持管理にあたられ、現在に至っています。山形交通時代にはリフト管理者の宿舎として使われ、この時に広間だった1階は改装され、3つの個室に仕切られました。三宅氏に譲渡された以降は手を加えず、建設当初の状態が可能な限り維持されています。当初は現在地より北東約50mのところに位置していましたが、1972年（昭和47年）近隣のホテル建設に伴い移設を求められ、この時に解体案も浮上しましたが、「白洲さんの山荘を壊すわけにはいかない」という馨氏の強い意思で残すことを決め、現在の位置に曳き家によって移されました。

② 保存の方針

保存・活用にあたっては、更なる調査の上で白洲次郎が建てた初期の状態に戻すことを第一とし、その他は現状のまま保存することを基本とします。ただし、東日本大震災に耐えたとはいえ建築工学上の耐震性能は未解明です。一般開放を目指しますので、より公共建築物に近い性能が要求されるため、まずは、詳細な調査を行います。調査結果を踏まえ構造的な補強とともに、内部の改修（初期状態への回復）を行います。資金の大半はここに投入される予定です。

③ 保存・活用の目的

ヒュッテ・ヤレンの使い方に関する具体的なプランはまだありません。しかし、白洲次郎の構想を現代において捉え直すとき、蔵王の資産でもあるこの山荘を蔵王固有の風景と結んでまちの活性化を図っていくことが彼の志を受け継ぐことだと確信しており、そういった実践的なまちづくりの核とすることを、ひとつの目的としています。

また、調査の過程で、地元の「白洲次郎を語る山形の会」や仙台の「白洲次郎倶楽部」をはじめ、白洲次郎の研究者やファンが全国に散在していることを知りました。こうした方々を横断的につなぐネットワークを構築し、交流・交歓のための実際的な場をここに開き、東京の「武相荘」とは趣を異にした、白洲研究のシンボルとすることをもうひとつの目的としています。

この計画は2012年2月に開始し、2014年2月に開催される山形冬季国体までに完了させることを目標にしています。

趣旨概要

白洲次郎が東北電力会長時代に建てた小さな山荘（ヒュッテ・ヤレン／現三宅山荘）が蔵王温泉に現存します。欧風の外観が周囲の景観に程よく溶け込み、落ち着いた佇まいを見せています。この山荘を、蔵王温泉のみならず山形県の歴史・文化的遺産として長く後世に語り伝えたいと考え募金活動を開始しました。

募金の使途

皆様から頂いた貴重な募金は、ヒュッテ・ヤレンの修繕費と、保存・活用に携わったスタッフの一部経費に充填させていただきます。活用方法については、「一般開放」を望んでいる声が多く、この目標に向かって募金活動を行います。そのため目標額を1,500万円と設定しております。

募金方法

保存・活用の趣旨にご賛同して頂ける方は一口5,000円を原則として、一口から募金して頂くことが可能です。添付の「払込取扱票」に必要な事項をご記入の上、ゆうちょ銀行（郵便局）でご入金下さい。添付の払込取扱票以外でも、ご入金いただけます。

募金にご協力頂いた方の氏名をホームページ等で公開予定です。振込用紙の空欄に、氏名の公開に「同意する」「同意しない」のいずれかをご記入下さい。ご記入のない場合には公開致しません。

◎郵便振替

口座番号：02240-1-126506

加入者名：旧白洲次郎山荘 保存・活用の会

店名(店番)：229 当座0126506

※お振込の際、取扱手数料が発生しますのでご了承下さい。

【お問い合わせ】

NPO法人

元気・まちネット／東京

蔵王プロジェクトM・J

担当：矢口正武

Tel: 03-3829-4691

Fax: 03-3829-4692

yaguchi.m@so-kk.jp

元気・まちネットとは

「地方活性化」に向けた取り組みを展開しているNPO法人です。スポーツイベントやシンポジウム、勉強会を通して、その地方特有の歴史・文化・風景を再評価しながら、街に元気になってもらうことを目的に活動しています。山形県内でも、イギリス人旅行家イザベラ・バード、幕末志士清河八郎に再び光をあてることで、街を活性化する活動を地元の方々と共に継続中です。



白洲次郎の残した蔵王の山荘

Hütte JAREN

[ヒュッテ・ヤレン 保存・活用募金]

旧白洲次郎山荘 保存・活用の会
事務局 NPO法人 元気・まちネット
<http://www.genki-machinet.com/>